

やしサノエ

会報

2013 No.20



発行 江差追分会

2013.11.29

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hokkaido-esashi.jp/>



100回大会で優勝を競うのは君たち！

大会2日目に行われたアトラクションの「少年少女追分大合唱」は77名の少年少女が出場。最年少は5歳ですから、この中に50年後の100回大会の優勝者がいるかも知れません。

江差追分を支えてくれるもう一つの力

江差追分会副会長 馬川 政紀

新しい一步を踏み出した51回江差追分全国大会も無事終了した。今後の江差追分や全国大会のあり方を見出す重要な大会でしたが、いくつかの課題も提案されるなど意義のある大会でした。

この陰には、追分関係者ばかりでなく民謡関係団体の理解と協力を見逃すことはできないでしょう。

一般の部で優勝した柿沼初雄さん（宇都宮）の優勝旗を持って唄った目には大粒の涙があり、熟年の部の優勝者本田勝三さん（函館市）は堂々とした風格さえ感じさせ、少年の部を制した小山田祐輝君（札幌市）の重い優勝旗を抱えての熱唱は観衆を魅了しました。

一方、優勝を逃した出場者は「来年は必ず優勝したい」という思いを更に強めたことと思います。こうした状況を目の迫りにしたとき、江差追分の前途は未だ大丈夫と思ふ反面、ここまで追分大会を続けることが出来たのは、長い間ご後援やご協力を頂いた民謡団体のお力添えがあったからこそだと思います。

確かな実態は把握しておりませんが、追分会会員の多くは、それぞれの地元民謡連盟（協会）や日本民謡協会（他の民謡連盟等含む）に加入し、追分以外の民謡にも卓越した技能と技術を兼ね備えていると聞いております。

北海道民謡連盟は来年65周年を迎えるに当たって、追分会の祝辞を葉に掲載したいとのことであり、日本民謡協会は平成19年に青坂満上席師匠に「名人位」の称号をくださいました。

今後も江差追分会の各支部を筆頭に、都道府県の民謡関係団体の協力を戴きながら、追分会の進むべき方向や大会のあり方を確立して参りたいと思うところで

第51回江差追分全国大会

半世紀を超えて 次世代に向けて再出発

一般優勝 柿沼 初雄さん(宇都宮市)
 熟年優勝 本田 勝三さん(函館市)
 少年優勝 小山田祐輝君(札幌市)

第51回江差追分全国大会が9月20日より3日間の日程で開催され、半世紀を超えた大会が、次世代に引き継ぐ江差追分の再出発となった。

(松村隆編集委員)



昨年は第50回の節目の大会とあって多彩な行事を展開しただけに、今年は盛り上がりが見られたが、追分を愛好する人々の熱意によって例年と変わりになく、開催にこぎつけた。

会員の高齢化によって、熟年出場が増加しているが、出場者は減少することなく、今年も3日間のスケジュール運営に追われた。

出場数は一般192人、熟年160人、少年90人計442人に達した。

熟年の増加に対応して、65歳だった熟年出場年齢を5年前から年ごとに繰り上げを行い今年で70歳に達し、一般年齢も70歳未満に定着することになった。

少年大会は、近年後継者となる若年層の育成に力を入れてきたこともあって、地元が主流だった出場傾向が全国規模に広がってきている。

本年から遠隔地域より参加する子供のスケジュールに考慮し、21日(土)は地元、22日(日)は道内、本州と二日間とした。参加は地元38人、道内40人、本州12人と、遠隔地が地元を上回り、学業と父兄随行という制約にもかかわらず、全国規模が増加していることは注目すべき傾向である。さらに唄のレベルも上がっていると評価されている。

優勝の栄冠

毎年大会優勝をめぐる注目を集めるのが一般部門だが、今年は昨年4位の柿沼初雄さん(58歳)が栄冠を飾った。柿沼さんは栃木宇都宮市の出身、本州5人目の優勝。若い女性の優勝に替って第47回より今まで男性が優勝。特に年配者の味わいが重視される傾向にあるのか。

熟年は函館市の本田勝三さん(73歳)、少年は札幌市西宮の森小5年小山田祐輝君(10歳)が優勝した。

本年度大会の傾向について、「長年大会経歴を積んだ唄には個性がにじんでいる。その味わいが上位になっている。少年の出場は、ほかの民謡で鍛えており、追分の基礎が普及されてきている。指導者の理解が子供たちを伸ばしている」と近江師匠协会会长は評価している。

一般部門入賞者

- 優勝 柿沼 初雄 (栃木県)
- 準優勝 川俣 明彦 (埼玉県)
- 第3位 翔田ひかり (兵庫県)
- 第4位 泉 章藏 (札幌市)
- 第5位 三谷 早苗 (札幌市)
- 第6位 佐竹 春敏 (浦臼町)
- 第7位 山本 康子 (江差町)

熟年の部入賞者

- 第8位 井上さつき (北斗市)
- 第9位 貝澤早綾佳 (平取町)
- 第10位 村川真奈美 (苫小牧)

優勝 本田 勝三 (函館市)



昭和48年に小田忠次氏に師事、昭和55年から函館澄声会支部長、平成4年財団法人日本民謡協会(壮年)の部全国大会優勝、現在は北山洋子師匠に師事

- 準優勝 藤本 哲 (倶知安町)
- 第3位 上野 勲 (釧路市)
- 第4位 石崎 忠夫 (深川市)
- 第5位 那須 勇 (札幌市)
- 第6位 飯尾 利雄 (洞爺湖町)
- 第7位 細木 利良 (音更町)
- 第8位 野田 勝 (大阪府)
- 第9位 植田 征克 (深川市)
- 第10位 佐々木トキエ (東京都)
- 審査員特別賞 佐藤 吉次 (ブラジル)
- シンシヨール・シヨール(ハワイ)
- 大会長奨励賞 中田 セツ (七飯町)

通算18回目の挑戦で念願の頂点にたどりついた。22日に檜山管内江差町で開かれた第51回江差追分全国大会の決勝会。締めくくりに、優勝旗を手に江差追分を歌うと、感極まって涙が流れた。「応援し続けてくれた両親の墓に『優勝したよ』と報告したい」

おはつ 初雄さん
おきぬま 柿沼



「江差追分は歌い手が苦勞した分だけ、人の心に響く力が出る。これからも精進してより良い歌を歌えるようになりたい」。58歳。(山田一輝)

少年の部入賞者

優勝 小山田祐輝 (札幌市)



成田定光氏に師事し、4歳(平成20年)から民謡を、6歳から追分を始める。平成23年道南口説節全国大会少年1部優勝

準優勝 西口真由奈 (奈良県)
第3位 今井柚唯子 (大阪府)

- 第4位 前川もえぎ (江差町)
 - 第5位 浅尾 強嗣 (千歳市)
 - 第6位 石田 桃子 (札幌市)
 - 第7位 高橋 稜 (江差町)
 - 第8位 竹野 留里 (室蘭市)
 - 第9位 鈴木 清か (愛知県)
 - 第10位 見延 玲奈 (八雲町)
- 審査員奨励賞
- 水野 安奈 (江差)
 - 前川みどり (江差)
 - 小林 成美 (石狩市)
 - 小田桐結香 (千歳市)
 - 大沢 百恵 (苫小牧市)

94歳 朗々と7節7声
中田セツさんに大会長奨励賞

今大会、特別な賞が設けられました。受賞されたのは中田セツさん(94歳)。ここ3年間に渡り出場選手中の最高齢者で、しかも昨年と今年は地区予選を突破されての頑張りを讃えた賞を大会長から授与しています。民謡を本格的にはじめたのが60歳を過ぎてからだそうですから、正に今の高齢化社会で生きていくお手本と言えます。



今大会も見事に7節を7声で唄いあげていました。今後も元気で追分を唄い続けてください。

始祖 佐之市を讃えて
碑前で法要と江差追分を奉納



「追分はじめは佐之市坊主で・・・」と1800年代前期に唄われた民謡「問屋荷揚げ唄」にも唄われる座頭佐之市は、謙良節や松前節をもとに江差追分を大成したと言われています。こんにち唄われている江差追分の祖師として称えられ、佐之市の碑が東本願寺江差別院に建立されています。会では毎年、全国大会前日の午後に碑前において大会開催と追分会の隆盛を報告する法要を営んでおり、今年も9月19日午後、追分関係者約100人に参列していただき、法要の最後には朗々と流れる尺八の音に合わせ追分の合唱を奉納しました。

宗教学者・テノール歌手

79歳の初出場

ハワイ在住 真正 襄さん

好きの少年であったと言う。

追分全国大会では思わぬ異色の出会いドラマがある。今年にはハワイ在住の国籍を持つ宗教学者でテノール歌手、ジョー・シンシヨウさん（79歳）に出会った。ハワイ生まれの二世を思わせる名前だが、れっきとした日本人だ。日本名を真正襄という。

富山県田山町亀谷（現富山市に編入）の浄土真宗西本願寺派西法寺の8人兄弟姉妹の三男に生まれる。子供のころは住職の父について在家の仏教法要を手伝い、小学生のころから「仏教賛歌を朗々とうたう」歌



ハワイの正装であるアロハを着用し舞台へ堂々たる姿は、さすがプロ歌手の風格

富山高専から立教大学に進み龍谷大学に編入、昭和35年同大哲学科を卒業後、英国商社大阪支店に入社。更に米国務省の奨学資金制度でハワイ州立大学院哲学科、58年ハーバード大学院宗教学科の修士課程修了。三百人以上の応募からただ一人選ば

れる難関だったという。大学終了後、ハワイの放送局で日本語放送担当などを経て62年浦和短期大学教授、国際部長と20年間教授を務める。

教授引退後、70歳でイタリアに渡りローマ国際音楽院で声楽を学び、ハワイと東京を往復し、人々の心を癒すコンサート活動に力を入れていくという。

若いころから歌に関心を持ちクラシック、オペラ、民謡、童謡、歌謡曲から演歌までジャンルの枠を超えてうたう。

「歌は『縁』を大切に作る宗教心と深いかわりをもっているから、私はすべて『縁歌』だと思っているの

です」東海林太郎の名月赤城山、近江俊郎の湯の町エレジーも好きでうたつたと笑う。

ハワイでは日系のど自慢の民謡大会にも出場するが、10年程前に江差追分を知った。日本を代表する民謡と知って唄い始め、曲調の素晴らしさに取りつかれた。

「この唄を覚えたいと5年前に江差に来て近江八声師匠の指導を受けているが、なかなか唄いきれない」

近江師匠は、クラシックを本格的に体得しているのだから、その唄い方を生かした方が理解されると思う。「79歳と高齢でもあり、持っている個性を生かした唄い方がいいと指導している」という。

ハワイでは追分を教える先生がいないが、今年5月、ハワイで指導している石川恵司さんと出会い、ハワイ支部に参加することができた。石川さんは、平成5年からサンフランシスコやハワイで追分会支部を結成し、毎年自費でハワイを訪れ追分指導をしている。

「これほど追分熱心なのにハワイでは出会えなかったが、これからは東京でも会えるから、いつでも唄えますよ」石川さんに出会い大会出場がかなえられた。



左が東京恵鷗会支部長で真正さんをはじめハワイ支部を支える石川恵司師匠

本格派のプロ歌手だけに初めての舞台でも堂々と持ち前のクラシック調で追分をうたつた。声楽の歌い方と違うが、そんな追分があってもいい。

「追分ファンの熱意に感激しました。初めての大会でしたのに、拍手を送られて感激でした。石川さんとお会いしたので、練習を積み来年の出場をめざしてがんばります」

大会を終えた交流パーティーでもテノールの歌声を朗々と歌い上げ拍手を浴びた。

江差追分にまた異色の唄い手が現れた。本格派の歌手がこれからのどのような追分を唄い上げるのか、興味が尽きない。

追分文庫の新収蔵資料

江差追分会館から渡り廊下でつながっている山車会館の2階には、周知のように「江差追分文庫」(略称:追分文庫)が設けられている。

日頃から追分関係資料の入手に努めているが、先ごろ溪斎英泉ら江戸末期の画工の手になる浮世絵「木曾街道六十九次」のうち、浅間山眺望(馬子が追分宿辺りで愛馬をいたわっている図)が手に入った。さっそく追分会館資料室に展示され複写パネルしかなかったコーナーにやっと本物が入ったと関係者を喜ばせた。

引き続き資料収集に心がけていたところ、このほど江戸時代の信州追分宿を紹介した決定版ともいえるべき秋里籬島編・西村中和画の「木曾路名所図会」(第四巻・安永年間刊行)



新たに文庫に所蔵された「木曾路名所図会」

札幌の子供たちが江差追分尺八に挑戦

札幌市立西宮の沢小学校では、和楽器を含めた我が国の伝統文化に親しむとした新学習指導要領の一端で江差追分を含めた尺八の体験学習を始めました。

年度末までに4回の授業を行う予定で、講師陣は札幌地区運営協議会が全面的に支援し、また対象となる5年生106名には札幌支部から塩ビ管尺八110本が寄贈されました。

実は、この小学校は今年の少年全国大会で優勝した小山田祐輝くんが通う学校で、授業第1回目となった11月6日は小山田くんが尺八で江差追分を披露し、続いて講師となった協議会副会長の成田定光氏(札幌支部長)がお手本の披露と、尺八について説明。その後に子供たちが実際に尺八を手にとって挑戦しました。

音を出すことができずに悪戦苦闘を繰り返していましたが、40分の授業で20人ほど、その後の自主的な練習で児童の半数以上が音を出せるまで上達したそうです。

5年生の担任である立田教諭は「尺八そのものを知らなかった子供たちが目を輝かせてチャレンジしています。家に持ち帰り家族を巻き込んで取り組んでいる児童もあり、現時点では予想以上の成果を期待できそう。成田さんに感謝です」と話していました。

是非、このような授業を多くの学校で展開してほしいものです。



江差追分基本譜を背に、児童へ尺八について説明する成田氏

が思いのほか安値で手に入った。その他、戦前期の無名の工人の手になるとみられる「遊女の権現参り」の彩色された木彫りの板や、その昔、追分の本陣であった土屋家の古文書を交通史の専門家である大島延次郎博士が収録した「駅静(制)志」なども入手した。

さっそく会館内展示コーナーの一角に既存の貝原益軒著「木曾路之記」などと共に展示したが、これらの資料は江差のお宝の一部として未長く残ることであろう。地元内外の関係者の日常的な活用を願ってやまない。

(学芸部門理事 館 和夫)

函館地区運営協議会が「合同記念祝賀会」

熟年優勝者・本田勝三氏
名誉師匠昇格・福田継男氏
功労表彰受賞者・播磨孝雄氏・佐藤信一氏



今年、函館地区は江差追分関連で4つのお祝い事が重なった特別な年。10月27日に合同の祝賀会を開催し、たくさんの会員が出席しました。

それぞれの皆さんが手にした栄誉は個人が長年の努力により実を結んだものですが、祝賀会を合同で行う連帯感が示すように、地区会員同士のまとまりも大きな原動力になっているのではないのでしょうか。

受賞者4氏はお礼の言葉として「この受賞を契機として、更に精進し追分会に貢献していきたい」と抱負を語っていました。

「国を離れて…」

千葉栄人さん
地球の裏側で日本一の唄声を披露



ブラジルサンパウロで公演を終えての記念写真

第27回江差追分全国大会優勝者で正師匠の千葉

栄人さん（盛岡アカデミー支部長）が、岩手県が派遣した郷土芸能使節団の一員として、8月16日から12日間で南米と北米を訪問。移住者やその子孫の方々へ江差追分をはじめ日本人が生活の中から紡ぎだした心の唄と言われる日本民謡を披露してきました。

今回の旅について、千葉正師匠に伺いました。

●派遣団の主たる目的は。

南米の岩手県人会の式典にあわせたいもので、私達は岩手をはじめとした日本の郷土芸能を披露するため、郷土芸能使節団一行12名という規模でした。

●12日間で何回くらい舞台に立たれたのですか。

ブラジルとパラグアイとアメリカニューヨークで9回の舞台公演がありました。1回の公演は短くて40分位、長くて2時間、岩手民謡や、江差追分など日本を代表する曲目を披露しました。

●公演で一番感じたことは。

どこの公演でも祖国日本の民謡は



千葉正師匠が訪問した都市は全部で5か所。成田空港からアメリカのアトランタ経由でサンパウロへの所要時間は待ち時間も含め約30時間。地球の裏側は遠かったそうです。

望郷の唄として大変喜ばれたように思います。現在では世代交代も進み

二世、三世の時代になっているのですが、日本人の大和魂はしっかり受け継がれ、遠くから来る親戚の人達を待ち焦がれているような温かい笑顔で大歓迎して頂きました。

●千葉正師匠は江差追分を唄われたのですか。反応は。

どの会場でも江差追分は必ず唄いましたが、現地でも人気度は高く拍手の大きさにとても喜んで聞いて頂いたことが実感できましたね。

●一番の思い出は。

パラグアイのピラポ移住地という

ところでの事です。宿泊施設がないため、団員が一人ずつ移住者のお宅へお世話になったのですが、私は昭和36年に入植された私と同じ年代の伊沢さん宅へホームステイしました。

今でこそ380町歩の土地で大豆と小麦を耕す大農家となりましたが、当初30町歩の土地を与えられ、ぼつんとジャングルの中にテントを張ってそこから開拓生活が始まったそうで「何度故郷へ帰ろうと思ったことか」と話す表情から、想像を絶する苦勞の歴史が刻み込まれた重みが感じられました。

●最後に一言。

今回は震災復興の報告と支援の礼も大きな派遣目的の一つでしたが、公演を通して同郷の絆が一層深まり、とても有意義な旅行になった様な気がいたします。

また、温かい励ましのお言葉とたくさんのご支援をくださいました全国の追分関係者の皆さんへ、この紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

是非、復興の進んだ東北へ足を延ばしてください。



第1週／86歳の掛け合い

今セミナーの最高齢参加者は86歳の川村奈美さん（宮城県）と小沼とみ子さん（東京都）追分酒場では見事な掛け合いで喝采を浴びていました。



第2週／2名に通算20回参加の感謝状

斗賀小夜子さん（小樽市）と菊池正則さん（茨城県）は、今回で通算20回の参加となりました。会長より感謝状と青坂上席師匠が書いた色紙額が贈られました。



第3週／初めての七節七声に感激

今秋参加者で最年少は横浜からの三代川まゆなさん（29）。この2月に続いての参加で、2日目に初めて切らずに唄え、感激のジャンプ！講師の菊地勲正師匠もニンマリ。

各週のトピックスをご紹介します。

本場で追分と真剣勝負の3日間 平成25年 秋季江差追分セミナー終わる

秋季セミナーを10月31日から3週に渡り開催しました。

参加者数は格付2級から初心者までの47名で、それぞれの目標達成に向けて追分と真剣に向かい合う3日間を過ごしていました。



「追分広場」歓迎交流 法華寺通り商店街まつり

昨年の第50回大会から始めた法華寺通り商店街グルメまつりを今年も21日午後6時から開催した。

大会には全国各地から大勢の愛好者が江差にやってくるが、町民との交流の場がないため、以前から商工会若者グループが「笑い嘆き節大会」を実施。一時中断していたが、町議会議員会が再開し、昨年からの町職員スタッフも協力、法華寺商店街と一緒に上町に会場を設けて行った。

同商店街に歩行者天国「追分広場」を設け、舞台を仮設して追分や各地の民謡を唄いあい交流を深



仮設舞台でお国自慢を披露する加賀百万石支部の中村栄一さん。会場の江差町民はたくさんのお国自慢を堪能させていただきました。

めて賑わった。

会場では飲み物や三平汁などを提供、地元の全国大会優勝者寺島絵里佳、絵美姉妹が参加したほか、大会参加のため来町した日立市の桑名靖生さんなど十数名が飛び入りで自慢の地元民謡を披露し、会場に来ていた百名ほどの町民が聞き入っていました。

商店街まつりは2年目でまだ来訪者の参加は、普及されていないが「大会に訪れてくれる全国の人々にお国自慢を唄ってもらい、町民とふれあって歓迎する場を続けて行きたい」と同商店街の三国幸吉組合長が意欲を語っている。

（学芸部門理事 松村 隆）

【事務局からのお知らせ】

【第29期江差追分セミナー】

2月に次の日程で開催します。各週とも木曜日から土曜日の3日間日程で時間は9時～17時までです。

受講料は1万5千円となりますが、2週以上受講される方につきましては、割引制度があります。

◆日程／1月30日～2月1日

2月6日～8日

2月13日～15日

2月20日～22日

◆会場／江差追分会館



平成25年秋季セミナーより

冬季師匠会研修会の開催

今年度も唄の指導方法並びに伴奏の技能向上を図ることを目的に、第2回目の師匠会研修会を開催します。

◆日程／2月16日(日)

午前10時30分～午後3時

※師匠会総会後に開催します

◆会場／ホテルニューえさし

資格認定審査会の開催

師匠・準師匠・講師・準講師の資格を審査する今年度の認定審査会については次の通りです。

12月に地区運営協議会を通じて周知しますので、協議会を経由して3月1日までに申請して下さい。

◆日程／3月16日(日)

午前9時～

◆会場／江差追分会館

平成26年度

江差追分会理事会・総会

◆日程／4月27日(日)

理事会 午後1時

総会 午後3時

◆会場／ホテルニューえさし

田端鉄雄名誉師匠 逝去



泣いたとて
遠く行く人
やらねばならぬ
せめて
波風穏やかに

江差追分会名誉師匠の田端鉄雄氏が10月31日ご逝去されました。享年88歳でした。

昭和30年NHKのど自慢全国大会で3位に入賞。のど自慢入賞者の先陣であり、現在の江差追分会草創期より活躍し、全国大会審査を第7回大会から40回大会まで務めるなど、江差追分の伝承と普及促進にご尽力されました。

お通夜で、参列者20名による追悼追分合唱が行ない、故人とのお別れを惜しんでいました。

ご冥福をお祈りいたします。

第52回全国大会の日程

全国大会については、毎年9月第3金曜日からの三日間と決まっていますが、念のため来年の大会は次のとおりです。ご確認ください。

◆日程／9月19日～21日

◆会場／江差町文化会館



「ヤンサノエ」編集部では、皆さんの地区や支部での活動に関する情報をお待ちいたしております。

まずは電話で、お知らせ下さい。

【編集】 館 和夫・松村 隆
岩淵啓介・高田 裕
【企画】 江差追分会事務局